

## 2017/07/02 『勇気とは何か』

### ■ 自分を受け入れる勇気

勇気とは何か、辞書には、「困難や危険を恐れない心」とあります。それでは、困難の中でも、最も困難なこととは何でしょうか。それは、「愛する」ことです。聖書は、次のように教えています。

また、たとえ私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼か  
れるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。(I コリント 13:3)

あなたは人を愛せるでしょうか。人に怒りを覚えることなく、人をそのまま受け入れられるでしょうか。人に嫉妬を覚えることなく、人を愛せるでしょうか。それがいかに困難であるかは、自分がよく分かっているはずですが。さらに言うと、「自分」を愛することはもっと困難です。自分がいかに罪深いかを知っているから、自分がいかに劣っているかを知っているから、自分がいかに恥ずかしい存在であるかを知っているから、どうしても自分のことが愛せません。だから必死になって自分の「うわべ」を良くしようとします。人の目を気にし、必死になって愛される者を目指します。すると、自分より立派な人を見ると嫉妬し、その人を愛することができなくなります。ですから、人を愛するためには、まずは自分を愛することが求められます。

さらに困難なのは、神を「愛する」ことです。神を愛するとは、神を信頼することであり、具体的には、御言葉を信じることです。そして、御言葉の中でも、神様が最も伝えたい言葉、私達がまず受け取るべき言葉は、十字架の言葉です。これを信じて受け取ることが、人にとって最も困難なことです。つまり、十字架の言葉を受け取ることこそが、まことの勇気ということになります。

### ■ 十字架の言葉とは何か

十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力  
です。(I コリント 1:18)

十字架の言葉こそ「神の力」であり、それを受け取ることが勇気です。その言葉は、三つの事柄を私たちに語っています。

#### 1. あなたの罪を背負い、あなたの罪を赦す

そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を  
離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされた  
のです。(I ペテロ 2:24)

キリストの十字架は、自分でも受け入れることができない罪を神は赦し、あなたを受け入れることを語っています。イエス・キリストは自ら進んであなたの罪を背負い、あなたの罪を赦されました。

## 2. あなたが罪人であっても愛する

正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。(ローマ 5:7-8)

キリストの十字架は、あなたがどんな罪人であろうとも、何が起ころうとも、徹底してあなたを受け入れ愛することを語っています。

## 3. 誰もこの愛を引き離すことができない

私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

(ローマ 8:38-39)

キリストの十字架は、何人にも奪われないことを語っています。

### ■ 神のあわれみを求める勇氣

このように十字架の言葉は、あなたが何者であっても無条件で愛することを語っています。ところが、私達は自分など愛されないと思っているから、これを拒否してしまいます。「それでも愛する」と言われても、信じられません。ならば、どうすればよいのでしょうか。それは、神にあわれみを乞うしかありません。神にあわれみを乞いさえすれば神は助けてくださり、十字架の言葉を食べられるようにしてくださいます。すなわち、人に求められている勇氣は、『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください』という祈りかできるかどうかです。イエス・キリストはその勇氣を、譬えの中で次のように教えました。

ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。(ルカ 18:13-14)

イエス・キリストは、この祈りこそが人に必要な「勇氣」であり、「義」であることを教えられました。しかし、私たちは「勇氣」を勘違いし、人から何かほめられることをすることが勇氣だと思ってきました。目に見える恐れに立ち向かい、一生懸命頑張ることが「勇氣」だと信じてきました。ところが「真の勇氣」は、神にあわれみを乞い、十字架の言葉を食べることで神は教えます。それでも神に愛されていることを認め、自分自身をありのままに受け入れることこそが「真の勇氣」なのです。